

覧古考新

岡谷市史編さん室だより『覧古考新』No.31

2025(令和7)年 7月

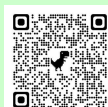
岡谷市教育委員会生涯学習課

岡谷市史編さん室 編集・発行

岡谷市中央町1-11-1 イルプラザ3F

TEL 0266-78-8455

WEBはこちら



覧古考新：古い事柄を顧みて、新しい問題を考察すること

～岡谷の歴史を深く思い、岡谷の今を重ね、岡谷の未来が拓けるような新しい市史をめざして～

シリーズ 岡谷市史下巻以降のおもなできごと ⑬ 文化施設 ー後編ー

広報誌などから旧市史<岡谷市史下巻1982(昭和57)年刊行. 編年: 昭和20年~昭和53年>以降の岡谷市政を中心に、テーマを設けてシリーズとして拾っています。今回は「文化施設」関係の後編です。

西暦	和暦	年	月	出来事
2013	平成	25	11	市立岡谷美術考古館が童画館通りにリニューアルオープン
2014	平成	26	8	岡谷蚕糸博物館-シルクファクトおかや-が リニューアルオープン
2018	平成	30	11	日本聖公会岡谷聖バルナバ教会が国登録有形文化財に登録
2024	令和	6	9	岡谷蚕糸博物館開館60周年・リニューアルオープン10周年記念式典
2024	令和	6	10	旧渡辺家住宅かやぶき屋根のふき替え工事完了



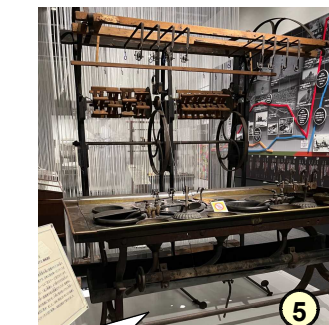
移転前の蚕糸博物館
(昭和39年撮影)



石造看板は大製糸企業で合資会社「吉田館」の経営者の一人、吉田泉氏が揮毫。現在の蚕糸博物館入口に移転、設置された。



蚕糸博物館に併設する製糸工場(株)宮坂製糸所。諏訪式繰糸機(左)、上州式繰糸機(右)や小型自動繰糸機等が実稼動している様子を見学することができます。

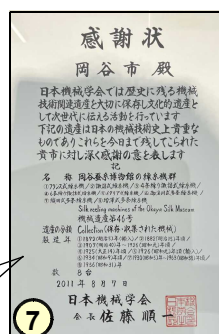


明治5年創業の官営富岡製糸場で使われていたフランス式繰糸機。当時300台の内の2台を岡谷蚕糸博物館で所蔵。現存最古の製糸機械として貴重である。

「日本機械学会
機械遺産認定証」
「岡谷蚕糸博物館の
繰糸機群」として平成23年に認定。
明治期以降の日本の近代産業に大きく貢献した機械群であり、製糸技術の遺産である。



機械遺産認定証とともに贈られた感謝状



岡谷蚕糸博物館開館60周年・リニューアルオープン10周年記念行事

- 「日本絹文化フォーラム 2024(6th)」6月15日・16日
- 「記念式典」9月23日
- 「Yumi Katsuraの世界」8月22日～11月10日
- 「Yumi Katsuraトーク&ファッションショー～シルクの魅力・Yumi Katsuraの世界～」10月2日
- 「シルク・サミット2024 in 糸都 岡谷(第25回)」11月16日・17日

岡谷美術考古館長のワークショップ大好評！



『酒井館長と「はにわ」を作ろう』
令和6年6月30日、
8月17日、11月24日



『酒井館長と「縄文マグカップ」を作ろう』
令和7年5月4日



岡谷聖バルナバ教会



昭和3年に教会を建てた初代カナダ人牧師さんが、製糸工場で働く工女さんたちがくつろげる場所にと、会衆席を畳敷にしたそうです。

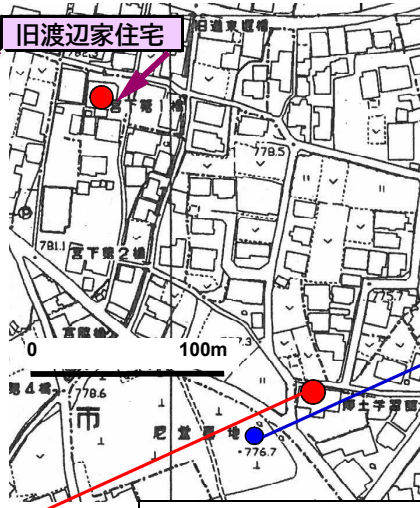


詳しくはこちらへ
<文化庁HP>





令和6年6月4日 市教育委員会主催
屋根ふき替え工事見学会



=歴史散策=
医聖と称され
た徳本先生が
岡谷に眠られ
てゐるんだね。



令和6年11月
屋根ふき替え工事
完了後撮影



郷土学習館

2020年 岡谷市都市計画基本図
1/2500を部分複写

藍塔（らんとう）：江戸時代初期の 名医
永田徳本の墓にある石塔。永田徳本は、寛
永7（1630）年に118歳で亡くなったと伝え
られている。 長寿と薬草療法で知られる。
屋根部分がボコボコに研（はつ）られてい
るのが特徴で、人々は叩いたり削ったりし
て石を持ち帰り、徳本の力を借りて患部を
撫でて祈ったと伝えられている。

平成11年4月オープン。同年9月、NPOの認証を受ける。
地域の約30名の運営委員と研究委員12名で構成。「学びて道
を拓く」をモットーに、渡辺三大臣をはじめとする郷土の先
人の生き方に学び、未来に続く新たな道を切り開こうとさま
ざまな活動を展開している。

＝ 県宝 旧渡辺家屋根ふき替え工事 ＝
約30年ぶりに屋根全体を修繕し、ほかの劣化部分も
直した。工事では、2010年に終えた北面を除く3面
をふき替え、併せて北面の傷んだ部分の修繕。伊那
市産のカヤ約9トンを使って県内の職人が施工し
た。傾いていた中門なども修復し、ひび割れや剥が
れが起きていた土間たたきも造り替えた。事業費は
4125万円で、渡辺家のご遺族からの寄付1000万円
や県補助金を活用した。



郷土学習館の
活動から

拓道塾「五兵衛沓をたどり ふりかえる郷土の歴史」
令和6年9月24日



郷土学習館の活動や研究の成果を発信
する「会報・郷土学習館だより」

令和七年三月末で、会報七六号、
郷土学習館だより六〇号

テーマ「文化施設」編集のおわりに

未来の「ものづくり」
を考えるならば、
まず、先人の英知と
努力をこの博物館で肌
で感じて頂きたい。

このメッセージと、郷土学習館の「学びて道を拓く」
は、岡谷市史編さん室だより「寛古考新」命名の理念と
相通ずるものがあります。岡谷の先人の英知と努力を
市史に書き記すことの意義はここにあると改めて教えら
れました。 ときどきの初心忘るべからず。

「岡谷蚕糸博物館紀要 第19号」令和7年3月15日発行 裏表紙より



郷土学習館玄関左の碑
(吉村午良書)

- 画像出典
- ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫ 2025年 岡谷市史編さん室撮影
 - ⑬⑭ 2024年・2025年 市立岡谷美術考古館撮影・提供
 - ⑮⑯ 2024年 岡谷市史編さん室撮影
 - ⑰⑱ 2024年・2025年 郷土学習館撮影・提供

コラム 渡辺三大臣3回シリーズ ③ 渡辺千冬（ちふゆ）司法大臣

前回に続き、渡辺三大臣3回シリーズ その③です。
今回は渡辺千秋の三男で、国武の養子となった千冬を紹介します。

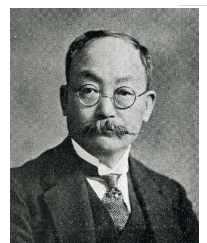
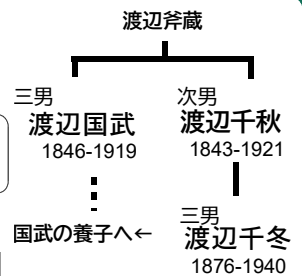
実業界でも活躍 早すぎる死が惜しまれる

千冬は、明治41年、32歳の若さで衆議院議員に当選し、昭和4年、濱口雄幸内閣の司法大臣となりました。在任中は幾つもの疑獄事件に対処し、歴代内閣が官庁の面目にこだわり決められなかった「まちがって牢に入れられた人の賠償法」を制定するなど、司法権の独立に尽力しました。また、実業界でも活躍し、明治33年、東京帝国大学法学部を卒業後、フランスに4年間留学し、帰国後は、主幹となって電報新聞を発行したり、興業銀行に入行したりするなど、報道や金融界で活躍。また日本製鉄所、北海道炭鉱汽船株式会社、富士製紙株式会社などの取締役に就任し経営の才を発揮しました。さらに、大正元年には開設された日仏銀行の東京支店長となって、国際銀行の範を示しています。千冬は太平洋戦争直前の昭和15年に64歳で敗血症のため急逝しました。もう少し長く生きていたらその豊かな経験と深い見識を活かし、戦後日本の復興に大きな力を発揮していたことでしょう。 *旧渡辺家土蔵の丑鼻：2025年市史編さん室撮影

参考文献：「渡辺三大臣と旧渡辺家住宅」平成4年11月20日発行 旧渡辺家住宅保存協力会研究委員会



渡辺家の家紋
「三つ星に一文字」
通称「渡辺星」*



人物肖像写真出典：
フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』
(パブリックドメイン)